

いのち
生命のにぎわいとつながり

No. 62

令和元年6月

クジラは、三方を海に囲まれ、捕鯨基地を擁する千葉県にとっては昔からなじみ深い生き物です。一昨年には勝浦市で、幻のクジラと言われるツノシマクジラの骨格が発見されました。令和最初のニュースレターとなる今号では、哺乳類でありながら海に還っていったクジラたちの魅力的な姿に迫ります。また、千葉県レッドリスト動物編の改訂についてお知らせするとともに、3月に開催された生命のにぎわい調査フォーラム、4月におこなわれた自然環境功労者環境大臣表彰についてご報告いたします。

クジラ ～海に還った哺乳類～



イルカとクジラの違いを知っていますか？ 実はどちらも同じクジラの仲間です。体長4m前後を境に、大きいものをクジラ、小さいものをイルカと呼ぶことが多いようです。一口にクジラといっても、体長2m前後のものから30m前後になるものまで様々で、多様な海洋環境を有する千葉県には多くのクジラたちが来遊します。

CONTENTS

- 1 クジラ ～海に還った哺乳類～ 1
- 2 千葉県レッドリスト動物編が改訂されました 3
- 3 生命のにぎわい調査フォーラムを開催しました 3
- 4 自然環境功労者環境大臣表彰を受彰 ヒメコマツ研究グループ・藤平量郎氏 4
- 5 千葉県の希少種（モートンイトトンボ） 4

クジラとは

現在、世界には約90種類のクジラが生息しています。クジラはヒゲクジラとハクジラの二つのグループに分けられます。

【ヒゲクジラ】

歯がなく、クジラヒゲを持つクジラたちです。体が大きい種類が多いのが特徴です。世界最大の動物シロナガスクジラもヒゲクジラに含まれます。比較的小さな餌を濾し取って大量に食べています。あまり群れは作りません。

【ハクジラ】

歯を持つクジラたちです。体の小さい種類が多く、イルカやシャチ、マッコウクジラなどがこのグループです。魚やイカなどを吸い込んで食べています。多くの種類が群れを作ります。



ヒゲクジラ (ザトウクジラ)



ハクジラ (マイルカ)

クジラは海に生きる哺乳類

魚のような姿をしているクジラたちですが、彼らは魚ではなく、哺乳類です。その証拠に卵ではなく赤ちゃんを産み、母乳で育てます。肺で呼吸し、体温は一定に保たれています。さらに、首の骨が7つという哺乳類の特徴もちゃんと持っています。現存している動物では、シカやウシなどの偶蹄類くうていれいに近い仲間であり、カバが最も近縁な種類です。

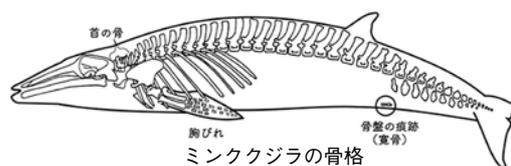


ザトウクジラの親子



ニタリクジラの潮吹き (噴気)
※潮吹きとは、鼻から吐いた息です

今でこそクジラは魚そっくりですが、約5300万年前の地層から発見された最古のクジラ (パキケタス) は、獣のような姿をして陸上で生活していました。進化の過程で徐々に生活の場を水中に移し、現在のような姿になったのです。クジラの骨格からは彼らの進化を感じることができます。前足は胸びれになり、後ろ足は退化、皮膚が変化して背びれや尾びれができました。



ミンククジラの骨格

千葉のクジラ

三方を海に囲まれる千葉県には多様な海洋環境が存在します。西は東京湾、南と東は太平洋に面しています。さらに、その中には浅い海と深い海、暖かい海や冷たい海など様々な環境が存在します。多様な海洋環境に支えられ、千葉には多くの生き物たちが生息しています。

クジラも様々な種類が来遊します。スナメリと呼ばれる体長2mほどの世界最小クラスのクジラは、東京湾にも太平洋側にも生息しています。東京湾に定住している唯一のクジラで、昔に比べると数が減っていると考えられています。

千葉には珍しいクジラもやって来ます。勝浦市では、ツノシマクジラという珍しいクジラが発見されました。日本での記録・標本は数体しかありません。そのほかにもザトウクジラやコククジラ、マッコウクジラやスズイルカなど、千葉県ではなんと20種以上のクジラたちの記録があるのです。

(宮川 尚子 千葉県立中央博物館)



千葉県立中央博物館では、令和元年7月13日(土)から9月23日(月・祝)まで企画展「ほにゅうるい」を開催します。タヌキなど身近な種からジャイアントパンダのような珍しい種まで様々な哺乳類の剥製や骨格を展示し、広く哺乳類について紹介します。勝浦市で見つかったツノシマクジラや、希少な東京湾のスナメリの骨格も展示します。

千葉県レッドリスト動物編が改訂されました

近年、地球規模での自然環境の変化により、多くの野生動植物が絶滅の危機に瀕しています。生物多様性の保存は国際的な課題となっており、この状況は千葉県でも変わりません。

そこで千葉県では、平成7（1995）年から県内で絶滅のおそれのある野生生物を種ごとに写真付きで掲載し、その重要性を6段階で評価した「千葉県の保護上重要な野生生物—千葉県レッドデータブック」を作成し、植物・菌類と動物に分けて概ね10年ごとに改訂してきました。また、その間を概ね5年ごとに補足する形で、文字情報のみではありますが、評価等に改訂を加えた「千葉県レッドリスト」を発行してきました。選定により法的強制力を伴うものではありませんが、県民の方々に貴重な野生生物の現状を理解していただき、自然との共生の在り方や開発行為での保全の在り方を考えていただくことを目的としています。

このうち植物・菌類については、平成29年に「千葉県レッドリスト植物・菌類編2017年改訂版」を発行し、さらに動物については平成31年3月、哺乳類や鳥類など8分類群をまとめた「千葉県レッドリスト動物編2019年改訂版」を発行しました。前回のレッドデータブック植物・菌類編と動物編がそれぞれ2009年と2011年の発行でしたので、8年ぶりに県内の希少生物についての最新情報が出そろったこととなります。

千葉県レッドリスト動物編2019年改訂版に掲載された希少種の数、922種となりました。前回レッドデータブックの902種と比べると20種の増加となります。掲載種は昆虫が圧倒的に多く、モートンイトトンボ、シロヘリハンミョウなどが新たに最重要保護生物（カテゴリーA）として掲載されました。



他には、鳥類ではハヤブサ、魚類ではアブラハヤなどが新たに最重要保護生物となりました。一方、カワウのように個体数の回復が認められたためレッドリストから削除された種もあります。

千葉県レッドリスト動物編2019年改訂版は、当センターのウェブサイトから無料でダウンロードできますので、御活用ください。

http://www.bdcchiba.jp/endangered/endang_index.html

（奥田 昌明 千葉県生物多様性センター）

いのち 生命のにぎわい 調査フォーラムを開催しました

いのち 生命のにぎわい調査団は、平成31年3月末で設立から10年8ヶ月が経過し、団員数は1,432名、報告件数は約102,000件となりました。

平成31年3月2日（土）に、中央博物館講堂で調査フォーラムを開催し、66名（団員48名、団員以外7名、職員11名）が参加して、千葉県の生き物について最新情報を交換しました。

1 講演「“科学的未開”を拓く冒険～世界の生物多様性ホットスポットを調査する～」

生物多様性センター 主事 栗田隆気
生物多様性ホットスポットとして注目されているボルネオを調査している演者が、その重要性を現場の様々な写真を通して紹介。

2 団員からの貴重な情報提供や観察事例の紹介

- ・「養老川下流から河口の水鳥の観察事例」嶋 徹
- ・「国鳥キジの凄技紹介」千葉 公
- ・「サンバの親子の子育て」高見 等
- ・「続・三宅島在住レポート」中込 哲

3 事務局からのお知らせ

生物多様性センター 囑託 森 晃

4 平成30年度写真コンテストの審査発表

フォーラム参加者の投票により、応募57作品から最優秀賞と優秀賞を決定しました。これらの作品は、今後センターの年報の表紙などに使わせていただきます。他の応募作品も県刊行物等に活用させていただきます。また、応募作品は、中央博物館でトピックス展「生命のにぎわい」として3月5日（火）～5月6日（月祝）に展示しました。

5 公演「詩人・大島健夫が詠む生物写真」

生物多様性センター 囑託 大島健夫
ポエトリー・スラムW杯日本代表詩人でもある大島が、写真コンテスト応募作品から厳選した作品に詩を添え、一番のお気に入り写真に「大島賞」を捧げました。

（大木 淳一 千葉県生物多様性センター）



★最優秀賞★ 縄張り争い！『闘雉図』（キジ）千葉 公さん



★優秀賞★ キジとアオダイショウのバトル① 長妻 輝夫さん



★大鳥賞★ 二匹の魚を捕獲（ミサゴ）戸崎 安司さん

自然環境功労者環境大臣表彰を受彰 ヒメコマツ研究グループ 藤平量郎氏

平成31年4月17日（水）におこなわれた、「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰において、長年にわたり房総丘陵の森林や沢植生などを調査研究されてきた、藤平量郎氏が表彰されました。

この表彰は、自然環境の保全に関する顕著な功績があった方を讃えるため、平成11年より環境大臣名で行われているものです。藤平量郎氏の長年にわたる調査研究のなかでも、絶滅の危機にあった「ヒメコマツ」の生育調査を始めとした保護活動等の功績や、自然環境の保全および普及啓発活動への尽力が評価されたもので、保全活動部門で受彰されました。氏の表彰は昨年の文化の日千葉県功労者表彰に続くものとなりました。

表彰のご紹介とあわせて、お祝い申し上げます。

（小野 知樹 千葉県生物多様性センター）



前列左から3人目が藤平氏（写真提供：環境省）

千葉県の希少種

モートンイトトンボ



（千葉県レッドリスト：最重要保護生物A）

モートンイトトンボは、県内に生息するイトトンボの中でも屈指の美麗種と言えるでしょう。

腹部後半が鮮やかな橙色をした雄、未成熟の間は全身が橙色で成熟すると若草色となる雌、それぞれ息を呑むほどの美しさです。しかし、そのような鮮やかな姿にもかかわらず、モートンイトトンボはほんの足元を飛んでいてもなかなかその存在に気づけないトンボでもあります。それ程小さなトンボです。

その体長はわずかに2～3cmに過ぎず、しかもたいへん細いため、慣れるまでは目を凝らして見ないとそれとわからないのです。でもひとたび、虹色の糸くずが飛んでいるかのようなその姿に気づけば、もう忘れることはありません。

モートンイトトンボは、平地から丘陵地の水田や、植物の多い湿地に生息しますが、圃場整備による湿地の消滅、耕作放棄の進行、乾燥化などにより、県内における生息環境は悪化の一途を辿っています。本年の千葉県レッドリストの改訂においては、「B（重要保護生物）」から「A（最重要保護生物）」へとランクが引き上げられました。このようなイトトンボの仲間は長距離を飛翔する能力が高くないため、一度地域的に絶滅すると、そのあと再び環境を整えても他の地域から飛来することは困難です。大切なのは、今ある生息地を確実に保全し、次代へと引き継いでゆくことです。

美しいけれど目に留まりにくい、目に留まらないまま各地で消えていこうとしているモートンイトトンボ。もしかしたら、これまで気づかなかただけで、皆様の身近な水辺にも、このトンボが生き残っているかもしれません。見つけたら是非、お便りください。

（大島 健夫 千葉県生物多様性センター）



生物多様性ちばニュースレター No62 令和元年6月30日発行

編集・発行

千葉県生物多様性センター（環境生活部自然保護課）

〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2（千葉県立中央博物館内）

TEL 043(265)3601 FAX 043(265)3615 URL <http://www.bdcchiba.jp>

